

## コロサイ人への手紙

## 第一章

「神の御旨によるキリスト・イエスの使徒パウロと兄弟テモテから、ニコロサイに在る、キリストにある聖徒たち、忠実な兄弟たちへ。」

わたしたちの父なる神から、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

三 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。四 これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していदैいてゐるあなたがたの愛とを、耳にしたからである。五 この愛は、あなたがたのために天にたくわえられてゐる望みに基くものである。六 その望みについては、あなたがたはすでに、あなたがたのところまで伝えられた福音の真理の言葉によつて聞いている。六 そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長してゐるのである。七 あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエパfrasから学んだのであつた。彼はあなたがたのためのキリストの忠実な奉仕者であつて、あなたがたが御霊によつていदैいてゐる愛を、

わたしたちに知らせてくれたのである。

九 そういふわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもつて、神の御旨を深く知り、一 主のみこころになつた生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行つて実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加ふるに至ることである。二 更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがつて賜はるすべての力によつて強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、三 光のうちに在る聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さつた父なる神に、感謝することである。三 神は、わたしたちをやみの力から救ひ出して、その愛する御子の支配下に移して下さつた。四 わたしたちは、この御子によつてあがない、すなわち、罪のゆるしを受けてゐるのである。

五 御子は、見えない神のかたちであつて、すべての造られたものに先だつて生れたかたである。六 万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあつて造られたからである。これらいつさいのものは、御子によつて造られ、御子のために造られたのである。七 彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあつて成り立つてゐる。八 そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたか

たである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。一九神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、二〇そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

三あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。三しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。三ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

四今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、わたしの肉体をもつて補っている。二五わたしは、神の言を告げひろめる務を、あなたがたのために神から与えられているが、そのために教会に奉仕する者になっているのである。二六その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今

や神の聖徒たちに明らかにされたのである。二七神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。二八わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。二九わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。

第二章 一わたしが、あなたがたとラオデキヤにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。二それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。三キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。四わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。五たとい、わたしは肉体においては離れていても、霊においてあなたがたと一緒にいて、あなたがたの秩序正しい様子とキリストに対するあなたがたの強固な信仰とを見て、喜んでゐる。

六このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け

いれたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基づくものにすぎない。キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、こゝしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされているのである。彼はすべての支配と權威とのかしらであり、こゝあなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼、すなわち、キリストの割礼を受けて、肉のからだを脱ぎ捨てたのである。こゝあなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。こゝあなたがたは、先には罪の中にあり、かつ肉の割礼がないままに死んでいた者であるが、神は、あなたがたをキリストと共に生かし、わたしたちのいっさいの罪をゆるして下さった。神は、わたしたちを責めて不利におとしいる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。こゝとして、もろもろの支配と權威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。」

「だから、あなたがたは、食物と飲み物につき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。一七これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストにある。一八あなたがたは、わざとらしい謙そんと天使礼拝とおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによっていたずらに誇るだけで、キリストなるかしらに、しっかりと着くことをしない。このかしらから出て、からだ全体は、節と節、筋と筋とによって強められ結び合わされ、神に育てられて成長していくのである。」

「もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの靈力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、三「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。三これらは皆、使えば尽きてしまうもの、人間の規定や教によっているものである。三これらのことは、ひとりよがりの礼拝とわざとらしい謙そんと、からだの苦行をとともなうので、知恵のあるしわざらしく見えるが、実は、ほしのままに肉欲を防ぐのに、なんの役にも立つものではない。」

第三章 「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。こゝあなたがたは上にあるものを思うべきであっ



て、地上のものに心を引かれてはならない。三あなたがたはすでに死んだものであつて、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。四わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであらう。

五だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。六これらのことのために、神の怒りが下るのである。七あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いてゐた。八しかし今は、これらいつさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい。九互にうそを言つてはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、造り主のかたちに従つて新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。二そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。

三だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されてゐる者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。二互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あな

たがたもゆるし合いなさい。四これらいつさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。五キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となつたのは、このためでもある。いつも感謝していなさい。六キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによつて、感謝して心から神をほめたたえなさい。七そして、あなたのすることはすべて、言葉によつてなし、彼によつて父なる神に感謝しなさい。八妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。九夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたつてはいけない。一〇子たる者よ、何事についても両親に従いなさい。これが主に喜ばれることである。一一父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかも知れないから。一二僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。一三何をするにも、人に対してではなく、主に對してするように、心から働きなさい。一四あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであらう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。一五不正

を行<sup>おこな</sup>う者は、自分<sup>しぶん</sup>の行<sup>おこな</sup>った不正<sup>ふせい</sup>に對<sup>たい</sup>して報<sup>はく</sup>いを受<sup>う</sup>けるであらう。それには差別<sup>さべつ</sup>扱<sup>あつか</sup>いはない。

#### 第四章 一 主人たる者よ、僕を正しく公平に扱

いなさい。あなたがたにも主<sup>しゅ</sup>が天<sup>てん</sup>にいますことが、わかつてゐるのだから。

二 目をさまして、感謝<sup>かんしゃ</sup>のうちに祈<sup>いの</sup>り、ひたすら祈<sup>いの</sup>り続<sup>つづ</sup>けなさい。三 同時にわたしたちのためにも、神<sup>かみ</sup>が御言<sup>みことば</sup>のためには門<sup>もん</sup>を開<sup>ひら</sup>いて下<sup>くだ</sup>さって、わたしたちがキリストの奥<sup>おく</sup>義<sup>ぎ</sup>を語<sup>かた</sup>れるように（わたしは、実は、そのために獄<sup>ごく</sup>にながれてゐるのである）、四 また、わたしが語<sup>かた</sup>るべきことをはつきりと語<sup>かた</sup>れるように、祈<sup>いの</sup>ってほしい。五 今の時を生<sup>い</sup>かして用<sup>もち</sup>い、その人<sup>ひと</sup>に對<sup>たい</sup>して賢<sup>かしこ</sup>く行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>しなさい。六 いつも、塩<sup>しお</sup>で味<sup>あじ</sup>つけられた、やさしい言葉<sup>ことば</sup>を使<sup>つか</sup>いなさい。七 そうすれば、ひとりびとりに對<sup>たい</sup>してどう答<sup>こた</sup>えるべきか、わかるであらう。

七 わたしの様子<sup>ようす</sup>については、主<sup>しゅ</sup>にあつて共に僕<sup>しもべ</sup>であり、また忠実<sup>ちゅうじつ</sup>に仕<sup>つか</sup>へてゐる愛<sup>あい</sup>する兄弟<sup>きょうだい</sup>テキコが、あなたがたにいつさいのことを報告<sup>ほうこく</sup>するであらう。八 わたしが彼<sup>かれ</sup>をあなただがたのもとに送<sup>おく</sup>るのは、わたしたちの様子<sup>ようす</sup>を知<sup>し</sup>り、また彼<sup>かれ</sup>によつて心<sup>こころ</sup>に励<sup>はげ</sup>ましを受<sup>う</sup>けるためなのである。九 あなたがたのひとり、忠実<sup>ちゅうじつ</sup>な愛<sup>あい</sup>する兄弟<sup>きょうだい</sup>オネシモをも、彼<sup>かれ</sup>と共に送<sup>おく</sup>る。彼<sup>かれ</sup>らはあなたがたに、こちらのいつさいの事情<sup>じしやう</sup>を知らせるであらう。

一〇 わたしと一緒に捕<sup>とら</sup>われの身<sup>み</sup>となつてゐるアリスタル

コと、バルナバのいとこマルコとが、あなたがたによろしくと言<sup>い</sup>つてゐる。このマルコについては、もし彼<sup>かれ</sup>があなたがたのもとに行くなら、迎<sup>むか</sup>えてやるようにとのさしずを、あなたがたはすでに受<sup>う</sup>けてゐるはずである。二 また、ユストと呼ば<sup>よ</sup>ばれてゐるイエスからもよろしく。割<sup>かつ</sup>礼<sup>れい</sup>の者<sup>もの</sup>の中で、この三人<sup>さんにん</sup>だけが神<sup>かみ</sup>の国<sup>くに</sup>のために働<sup>はたら</sup>く同労<sup>どうろう</sup>者<sup>しゃ</sup>であつて、わたしの慰<sup>なぐさ</sup>めとなつた者<sup>もの</sup>である。三 あなたがたのうちのひとり、キリスト・イエスの僕<sup>しもべ</sup>エパfrasから、よろしく。彼<sup>かれ</sup>はいつも、祈<sup>いの</sup>のうちにあなたがたを覚<sup>おぼ</sup>え、あなたがたが全<sup>ま</sup>き人<sup>ひと</sup>となり、神<sup>かみ</sup>の御旨<sup>みせめ</sup>をことごとく確<sup>かく</sup>信<sup>しん</sup>して立<sup>た</sup>つようと、熱心<sup>ねつしん</sup>に祈<sup>いの</sup>つてゐる。四 わたしは、彼<sup>かれ</sup>があなたがたのため、またラオデキヤとヒエラポリスの人々<sup>ひとびと</sup>のために、ひじょうに心勞<sup>しんろう</sup>してゐることを、証言<sup>しょうげん</sup>する。五 愛<sup>あい</sup>する医<sup>い</sup>者<sup>しゃ</sup>ルカとデマスとが、あなたがたによろしく。六 ラオデキヤの兄弟<sup>きょうだい</sup>たち、またヌンバとその家<sup>いえ</sup>にある教会<sup>きやうかい</sup>とに、よろしく。七 この手紙<sup>てがみ</sup>があなたがたの所で朗讀<sup>ろうどく</sup>されたら、ラオデキヤの教会<sup>きやうかい</sup>でも朗讀<sup>ろうどく</sup>されるように、取<sup>と</sup>り計<sup>はか</sup>らつてほしい。またラオデキヤからまわつて来る手紙<sup>てがみ</sup>を、あなたがたも朗讀<sup>ろうどく</sup>してほしい。八 アルキポに、「主<sup>しゅ</sup>にあつて受<sup>う</sup>けた務<sup>つとめ</sup>をよく果<sup>はた</sup>すように」と伝<sup>つた</sup>えてほしい。

九 パウロ自身<sup>しん</sup>が、手<sup>て</sup>ずからこのあいさつを書<sup>か</sup>く。わたしが獄<sup>ごく</sup>にながれてゐることを、覚<sup>おぼ</sup>えていてほしい。恵<sup>めぐ</sup>みが、あなたがたと共にあるように。